

部活動改革における検討状況等について

令和5年（2023年）4月27日

教育改革推進課

1. 熊本市部活動改革検討委員会の検討の方向性

市立学校の部活動において、持続可能な運営主体のあり方や地域社会との役割分担、指導者確保等のために必要な事項について、諮問している。

第3回検討委員会において、委員長から、熊本市教育振興基本計画の基本理念である「豊かな人生とよりよい社会を創造するために、自ら考え主体的に行動できる人を育む」ことや部活動の意義等を踏まえ、今後、子どもたちのスポーツ・文化芸術活動の充実を図っていくためには、どのような仕組みづくりが必要か検討することについて共通理解を図った。

2. 検討委員会の概要

	開催日時	検討内容
第1回	R4.12.28	・委員委嘱及び諮問 ・検討委員会の趣旨説明及び今後の進め方 ・熊本市の部活動の現状について説明
第2回	R5.1.31	・オンライン意見交換会等（信州大学教育学部 齊藤忠彦教授） ・部活動アンケートの結果について ・部活動のこれまでの変遷等について
第3回	R5.2.28	・オンライン意見交換会等（スポーツ庁地域スポーツ課 田口雅紀課長補佐） ・前回までの検討委員会における意見への対応及び今後の検討の方向性について ・小学校部活動における地域移行の検証について
第4回	R5.3.28	・教師等が地域クラブ活動等に従事する場合の兼職兼業について ・熊本市における今後のスポーツ・文化活動について ・前回までの検討委員会における意見等を踏まえた今後の学校部活動の姿について

3. 第4回検討委員会における坂下委員長提出資料

本検討委員会における議論を進めるにあたり、次の点を共通認識として持つことが前回（第3回）の検討委員会において確認された。

熊本市教育振興基本計画の基本理念である「豊かな人生とよりよい社会を創造するために、自ら考え主体的に行動できる人を育む」や部活動の意義等を踏まえ、今後、子どもたちのスポーツ・文化芸術活動の充実を図っていくためには、どのような仕組みづくりが必要か検討する。

また、前回までに委員から

- ・現在ある総合型地域スポーツクラブでは、数も限られており、地域間での活動の有無や、小学生までで手一杯な状況など、受け皿としては難しい
- ・コロナの関係で地域の活動が3年停滞しており、地域力が落ちている状況で地域が受け皿となるのは難しい
- ・現在、熊本の有効求人倍率は1.4を超えており、さらに大企業が来たり法改正されたり、人手が足りないという中で、地域に部活動を担ってもらおうと思っても人手がいない
- ・部活動に意義があり、残していくのであれば、学校の中で人材を抱えるべきであり、地域に出せば済むという話ではないということを議論すべき
- ・拠点校型の合同部活動が一番現実的
- ・子どもの数が減り、既に活動できない部がでてきている
- ・親の立場としては安心して、学校で子どもがやりたい運動などをできるような状況が続けばいいと思う
- ・学校部活動を地域移行すると、家庭の経済状況で活動に参加できない生徒が出てくるのではないか
- ・地域移行する場合には、経過措置が必要

などの意見が出されている。

学校部活動は、体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図り、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、学校という環境における生徒の自主的で多様な学びの場として、教育的意義を有している。

しかし、少子化が進展する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなっており、学校や地域によっては存続が難しい状況にある。また、専門性や意思に関わらず教師が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、学校の働き方改革が進む中、より一層厳しくなっている。

学校部活動には、上記のような教育的意義や課題がある。その中で、子どもたちのスポーツ・文化芸術活動を充実するために、まずは、今後の学校部活動をどのように運営していくかを検討したい。

①部活動の持続可能な運営主体のあり方

〈地域移行に伴う懸念〉

- ・現在ある総合型地域スポーツクラブでは、数も限られており、地域間での活動の有無や、小学生までで手一杯な状況など、受け皿としては難しい。
- ・送迎等に伴う安全上の課題の整理や、保護者の負担増。
- ・地域移行する場合には、経過措置が必要。
- ・子どもたちの生徒指導と保護者の対応について。

〈運営主体のあり方について〉

- ・様々な立場の方が、少しずつ手を出して、育てていく仕組みをみんなで作り上げたい。
- ・拠点校型の合同部活動が一番現実的。市教委として合同部活動に関する規定を整理してほしい。
- ・部活動に意義があり、残していくのであれば、学校の中で人材を抱えるべきであり、地域に出せば済むという話ではないということを議論すべき。

②指導者の確保

- ・報酬が支払われれば部活動指導に従事したいと考える教員の割合は、中学校で約 40%、小学校で約 10%である。（令和 4 年 12 月実施アンケートより）
- ・中学生への指導となると、指導ができる人材も限られ、育成が必要になる。
- ・現在、熊本の有効求人倍率は 1.4 を超えており、さらに大企業が来たり法改正されたり、人手が足りないという中で、地域に部活動を担ってもらおうと思っても人手がいない。
- ・シルバー人材センターのような形で、退職教員版の部活動人材センターをつくってはどうか。

③経済的負担のあり方

- ・子どものスポーツ・文化芸術活動に毎月の会費として負担できる額について、中学生の保護者、小学生の保護者ともに「3,000円程度」ならよいと考える割合が約30%で最も多かった。（令和4年12月実施アンケートより）
- ・校長等の指揮監督下にあると判断されるような場合は、兼職兼業の対象ではなく、学校の本来業務の一部と整理される。（令和3年2月17日文部科学省通知より）
- ・今まで教員に対してただ働きを強いてきて、これまでより指導費が高くなる分について、今度は保護者に負担させるというのはいかがなものかと思う。その分は、行政が払うべき。

④スポーツ・文化施設の確保

- ・公立中学校の施設の整備・改修を支援（用具の保管のための倉庫の設置、スマートロックの設置に伴う扉の改修等）（令和5年度文部科学省予算案）
- ・学校以外に防音装置が整っているところが少ない。（令和4年12月実施アンケートより）
- ・活動場所の確保（楽器保管など）について、学校施設を使えるようにすべき。

⑤保険のあり方

- ・スポーツ安全保険について、災害共済給付と同程度の補償となるよう、国からスポーツ安全協会に補償内容の充実を要請。（令和4年6月6日国検討会議の提言より）
- ・スポーツ安全協会の保険は、指導者や運営側に過誤があった場合、保険が適用されないため、民間の保険に入っている。
- ・保護者の方等が立ち上げた団体において、危機管理の面で対応ができていない場合があり、改善が必要。

⑥熊本市における今後のスポーツ・文化芸術活動

- ・地域とか学校とかを考える前に、今後の熊本市の子どもたちのスポーツ・文化芸術活動の在り方や誰が主役なのかを考え直す必要がある。

⑦地域との連携やまちづくり

- ・部活動の問題は、広げて考えれば、まちづくりとかの解決にもなるのではないか。
- ・コロナの関係で地域の活動が3年停滞しており、地域力が落ちている状況で地域が受け皿となるのは難しい。

⑧生徒の自主的で多様な学びの場

部活動は、学校という環境における生徒の自主的で多様な学びの場として、教育的意義を有している。（令和4年12月スポーツ庁・文化庁のガイドラインより）

4. 今後のスケジュール（予定）

第5回検討委員会においては、第4回検討委員会までの議論を踏まえた具体的な案を提示する予定。

5月26日	第5回検討委員会	これまでの議論を踏まえた具体案の提示
7月	第6回検討委員会	 以降、2カ月に1回程度開催 3月 報告書
9月	第7回検討委員会	
11月	第8回検討委員会	
1月	第9回検討委員会	
3月	第10回検討委員会	

※令和6年4月以降も熊本市部活動改革検討委員会を定期的に開催予定

5.（参考）学校部活動改革検討に係るアンケートについて

令和4年（2022年）12月5日（月）から12月19日（月）に中学生、中学生保護者、小学生保護者、小・中学校教職員、小学校を対象に実施した。

結果については、別紙「抜粋版」のとおり。（全体版は別冊参照）

学校部活動改革検討に係るアンケート

調査結果

抜粋版

■ アンケート実施概要

(1) アンケートの目的

本市においては、今年度から、部活動改革に重点的に取り組むこととしており、子どもの多様な体験の機会を確保するとともに、持続可能な運営を図るうえで必要な事項を審議するために、外部有識者や学校、地域団体の代表等で構成される「熊本市部活動改革検討委員会」を設置した。本アンケートを通して多くの方々にご意見をいただき、同検討委員会における基礎資料とするため、アンケートを実施するもの。

(2) 調査期間

令和4年（2022年）12月5日（月）から12月19日（月）

(3) アンケートの対象及び回答方法

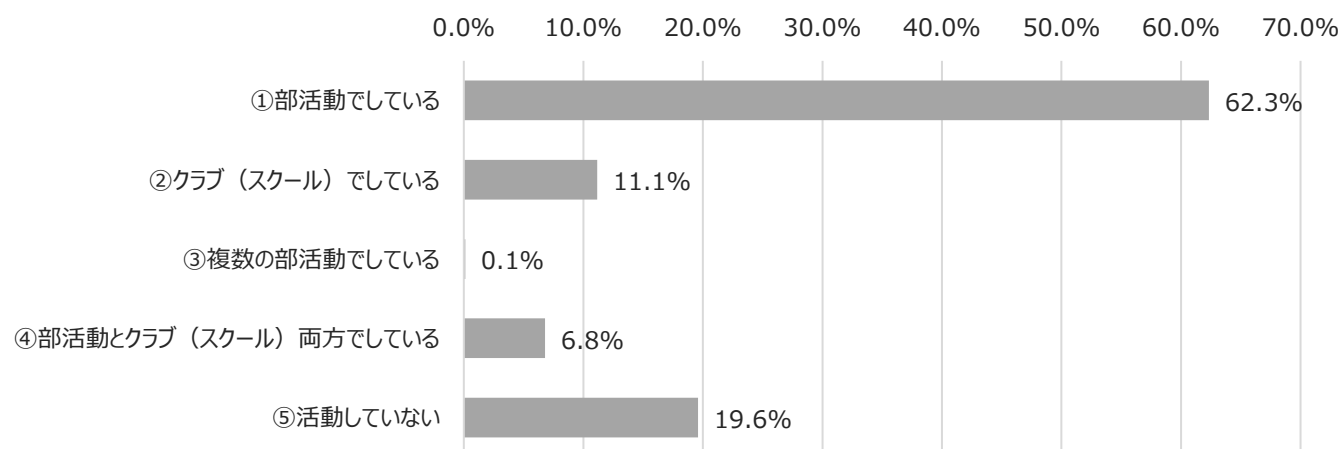
対象	回答方法 ※Microsoft Formsを使用	回答数	対象数 (全数)	回答率
中学生	学校のタブレット端末（iPad）で回答	10,085人	19,430人	51.9%
中学生保護者	安心安全メールにて回答先URLを配布し、各自端末で回答	6,979人	19,430人	35.9%
中学校教員	回答用URLを配布し、各自回答	912人	1,371人	66.5%
小学生保護者	安心安全メールにて回答先URLを配布し、各自端末で回答	13,580人	40,617人	33.4%
小学校教員	回答用URLを配布し、各自回答	1,567人	2,520人	62.2%
小学校	回答用URLを配布し、各校回答	92校	92校	100.0%

※ 調査結果は、各項目を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

※ 記述については、一部抜粋し掲載している。

問1 運動や文化に関わる活動をしていますか。

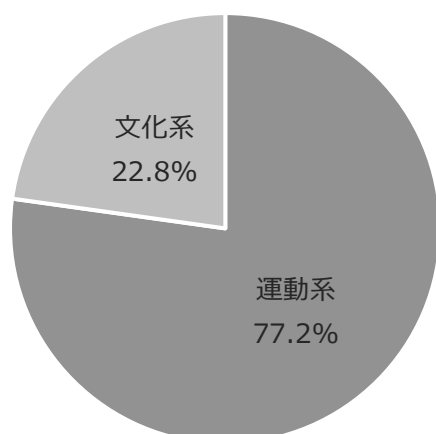
部活動のみに参加する生徒は約6割、クラブ（スクール）のみに参加している生徒は約1割、部活動にもクラブ（スクール）にも参加していない生徒は約2割であった。



	中学生	割合
①部活動でしている	6,287	62.3%
②クラブ（スクール）でしている	1,124	11.1%
③複数の部活動でしている	12	0.1%
④部活動とクラブ（スクール）両方でしている	686	6.8%
⑤活動していない	1,976	19.6%
計	10,085	

問2 所属している部活動は何ですか。

部活動に所属している生徒のうち、約 8 割が運動部に、約 2 割が文化部に所属していると回答した。

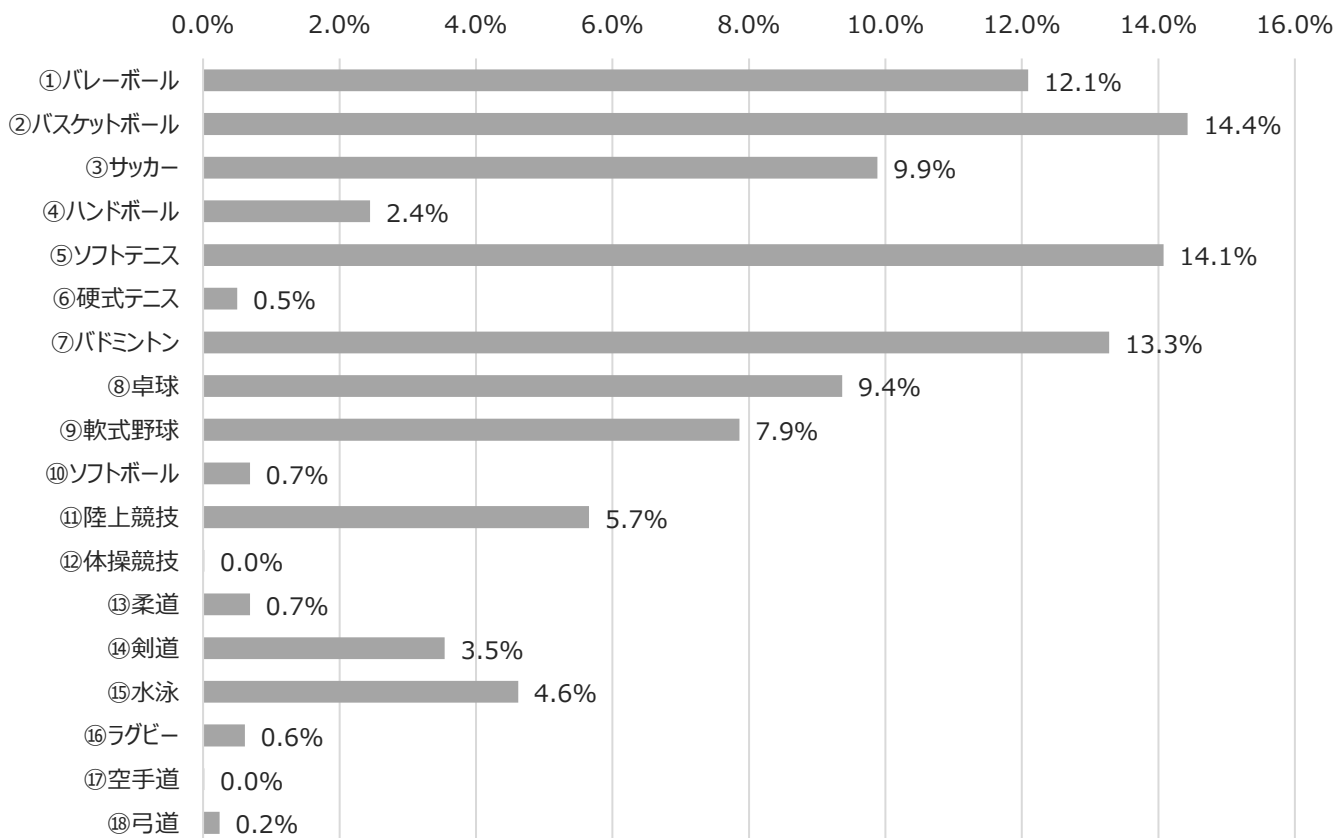


	中学生	割合
運動系	5,393	77.2%
文化系	1,592	22.8%
計	6,985	

問3 所属している部活動の種目を教えてください。

中学生が所属している運動部の種目は、「バスケットボール」が最も多く、「ソフトテニス」、「バドミントン」、「バレーボール」が続いている。

(運動系)

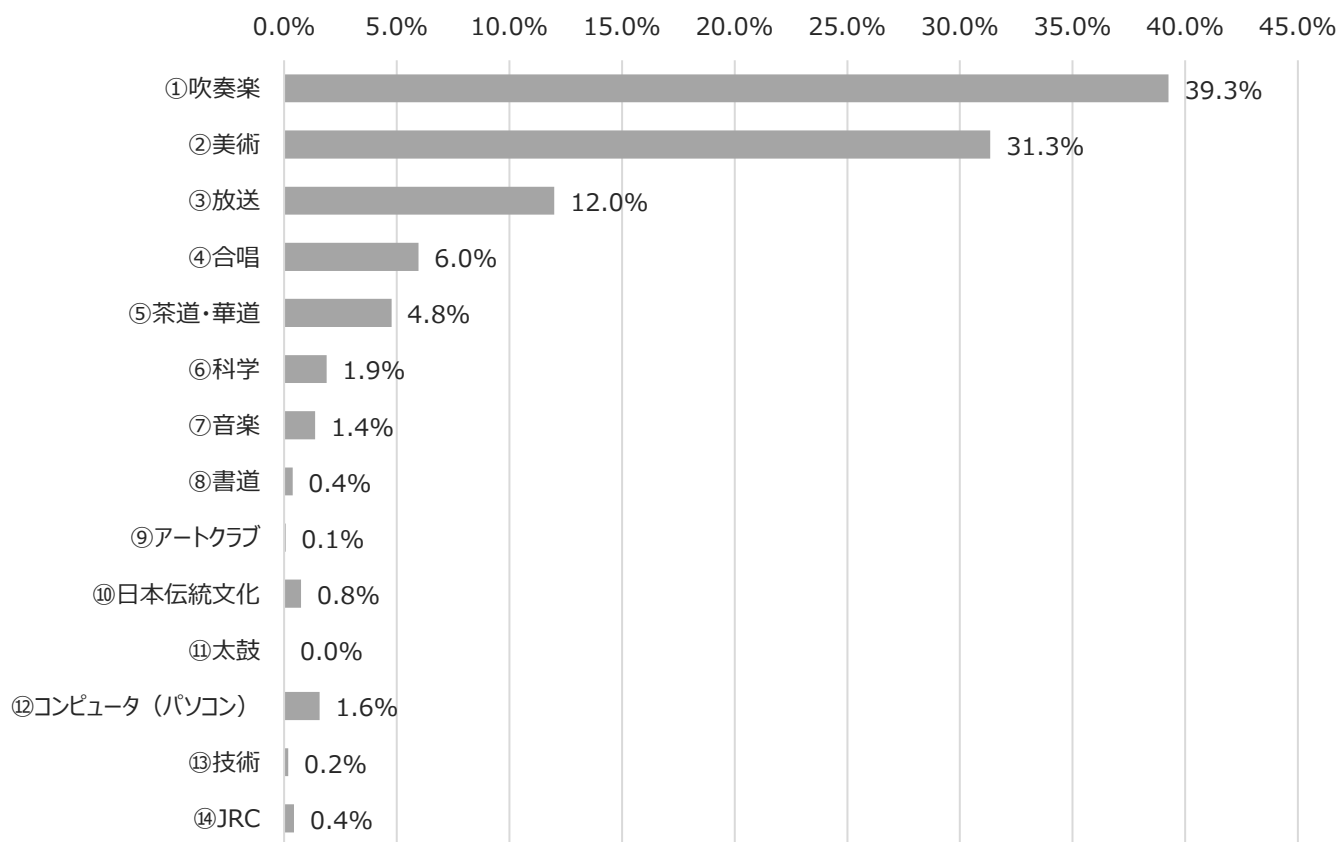


	中学生	割合
①バレーボール	652	12.1%
②バスケットボール	778	14.4%
③サッカー	533	9.9%
④ハンドボール	132	2.4%
⑤ソフトテニス	759	14.1%
⑥硬式テニス	27	0.5%
⑦バドミントン	716	13.3%
⑧卓球	505	9.4%
⑨軟式野球	424	7.9%
⑩ソフトボール	37	0.7%

	中学生	割合
⑪陸上競技	305	5.7%
⑫体操競技	1	0.0%
⑬柔道	37	0.7%
⑭剣道	191	3.5%
⑮水泳	249	4.6%
⑯ラグビー	33	0.6%
⑰空手道	1	0.0%
⑱弓道	13	0.2%
計	5,393	

中学生が所属している文化部の種目は、「吹奏楽」が最も多く、「美術」、「放送」、「合唱」が続いている。

(文化系)

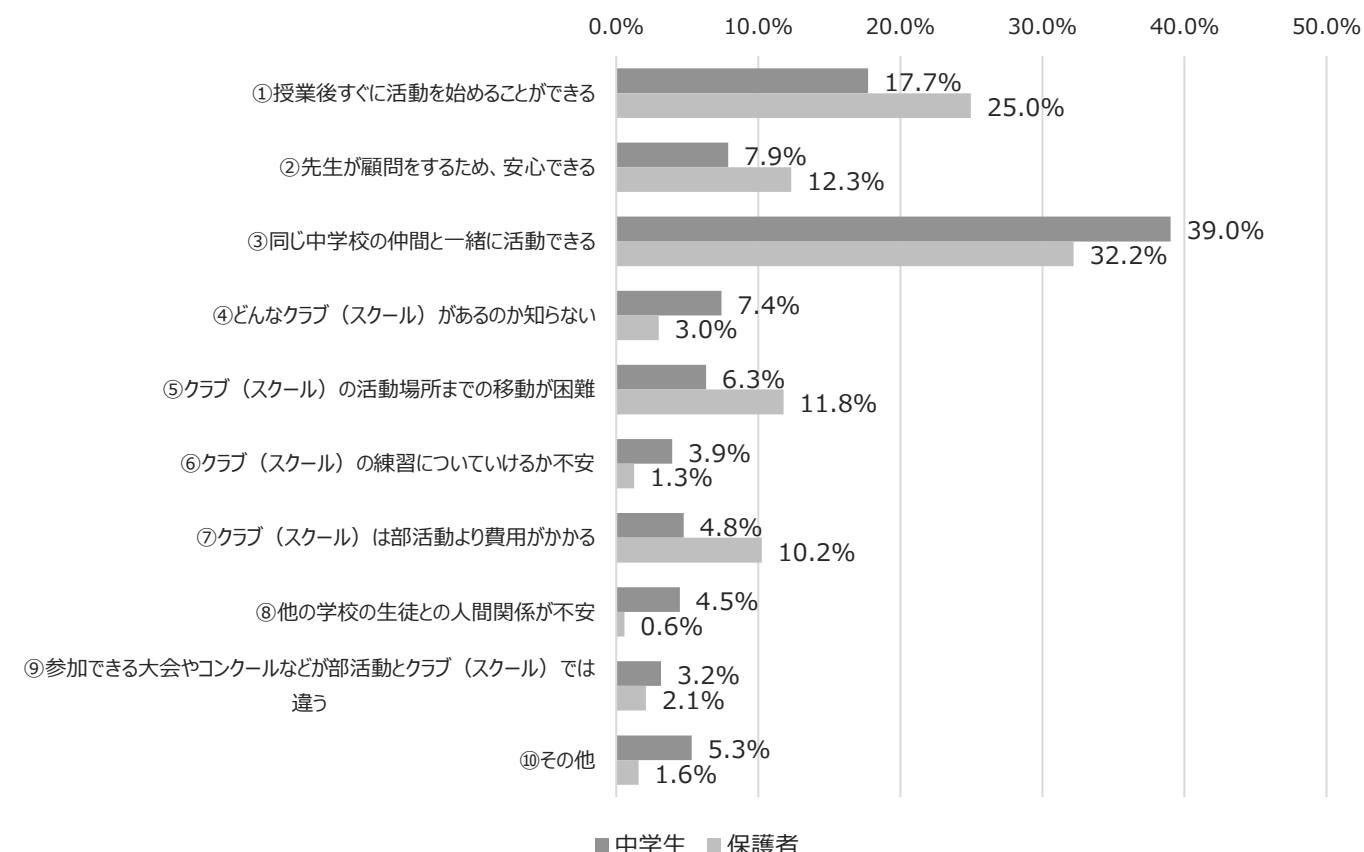


	中学生	割合
①吹奏楽	625	39.3%
②美術	499	31.3%
③放送	191	12.0%
④合唱	95	6.0%
⑤茶道・華道	76	4.8%
⑥科学	30	1.9%
⑦音楽	22	1.4%
⑧書道	6	0.4%
⑨アートクラブ	1	0.1%
⑩日本伝統文化	12	0.8%
⑪太鼓	0	0.0%
⑫コンピュータ (パソコン)	25	1.6%
⑬技術	3	0.2%
⑭JRC	7	0.4%
計	1,592	

問4 クラブ（スクール）ではなく、部活動に所属している理由を教えてください。

【複数回答可】

部活動に所属する理由は、中学生、保護者ともに「同じ中学校の仲間と一緒に活動ができる」が最も多く、「授業後すぐに活動を始められることができる」、「先生が顧問をするため、安心できる」が続いている。

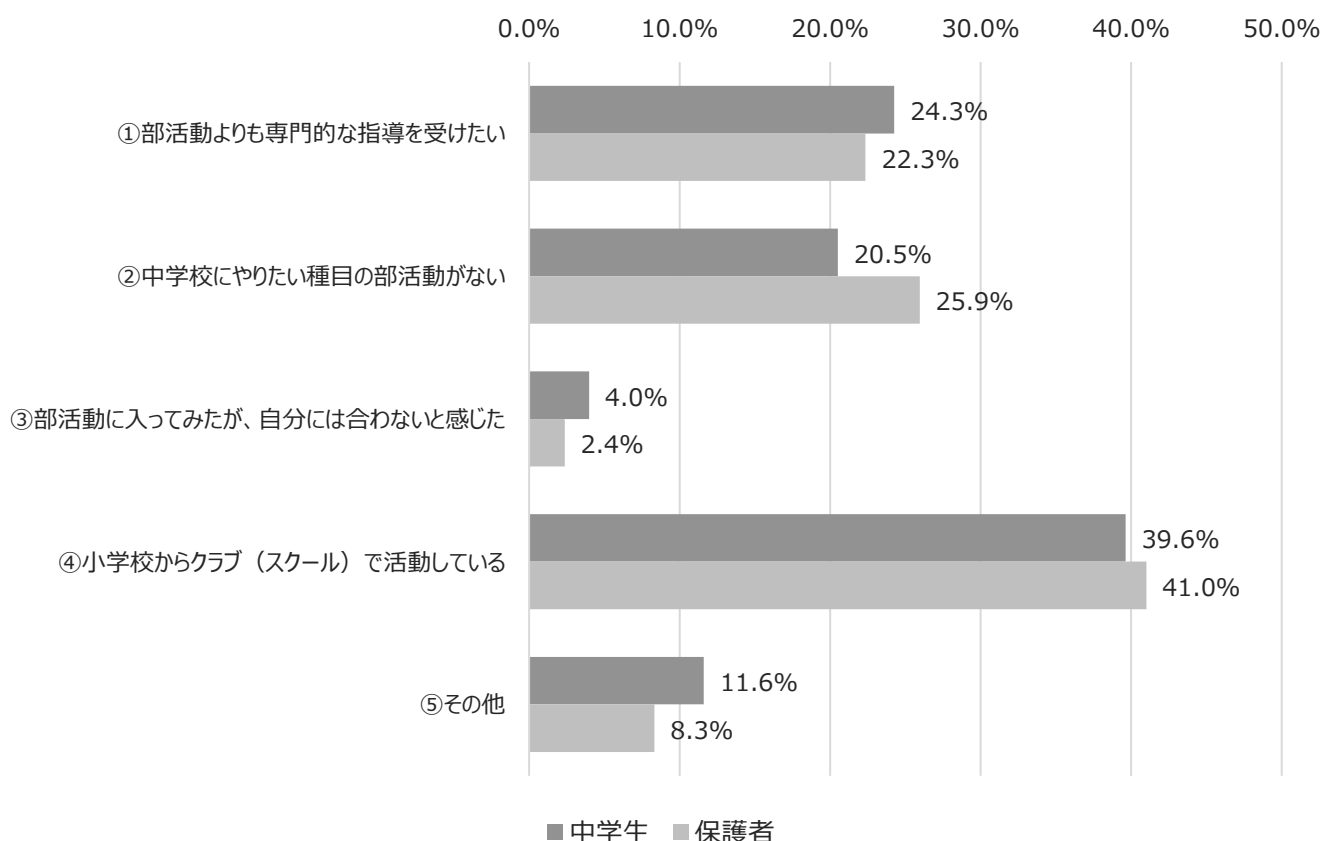


	中学生	中学生割合	中・保護者	保護者割合
①授業後すぐに活動を始められることができる	2,257	17.7%	3,053	25.0%
②先生が顧問をするため、安心できる	1,003	7.9%	1,505	12.3%
③同じ中学校の仲間と一緒に活動できる	4,969	39.0%	3,937	32.2%
④どんなクラブ（スクール）があるのか知らない	944	7.4%	366	3.0%
⑤クラブ（スクール）の活動場所までの移動が困難	807	6.3%	1,439	11.8%
⑥クラブ（スクール）の練習についていけない不安	501	3.9%	154	1.3%
⑦クラブ（スクール）は部活動より費用がかかる	605	4.8%	1,252	10.2%
⑧他の学校の生徒との人間関係が不安	569	4.5%	71	0.6%
⑨参加できる大会やコンクールなどが部活動とクラブ（スクール）では違う	402	3.2%	257	2.1%
⑩その他	676	5.3%	192	1.6%
計	12,733		12,226	

問7 部活動ではなくクラブ（スクール）で活動している理由を教えてください。

【複数回答可】

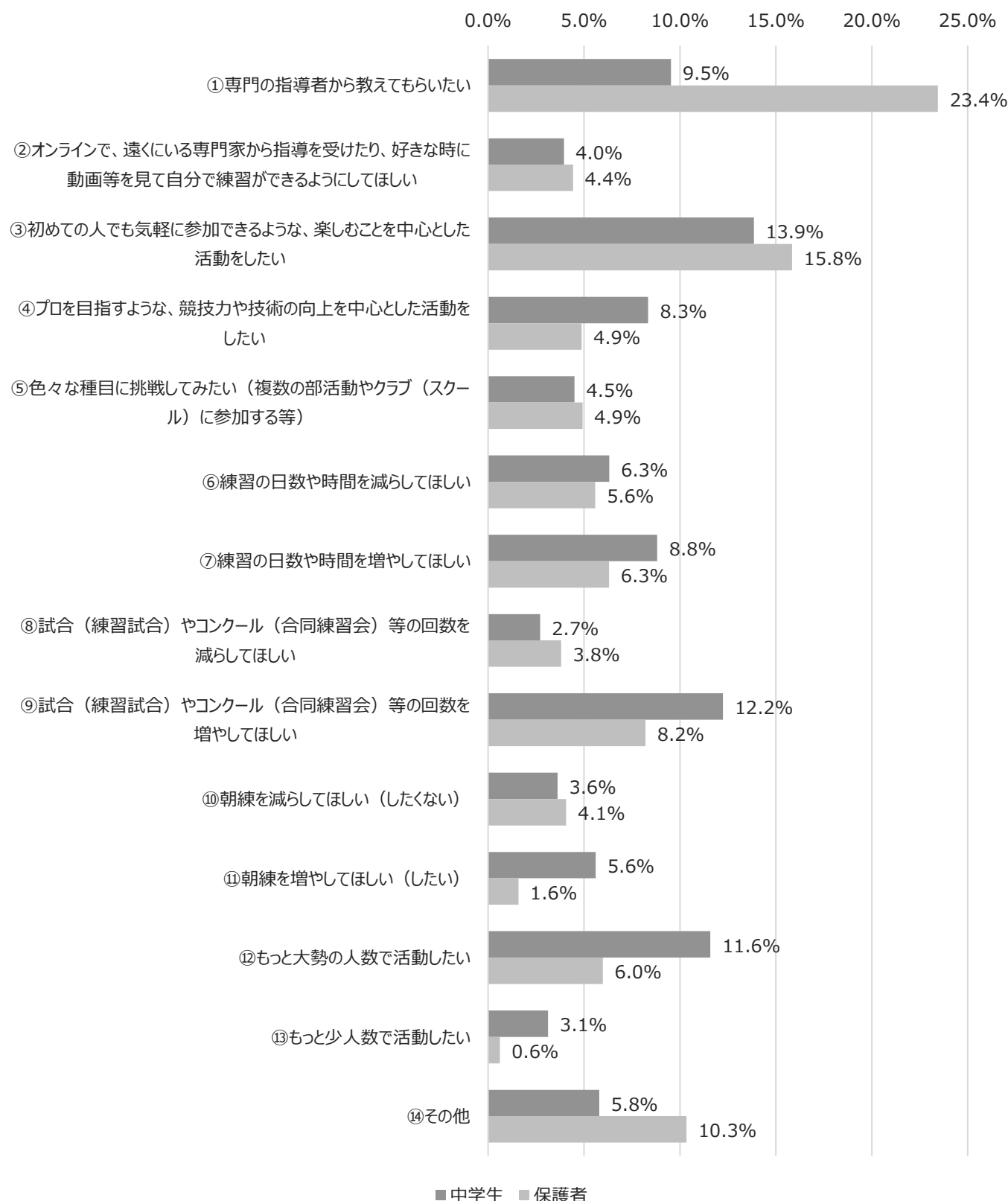
クラブ（スクール）で活動する理由は、中学生、保護者ともに「小学校からクラブ（スクール）で活動している」が約4割と最も多かった。中学生では、「部活動よりも専門的な指導を受けたい」、「中学校にやりたい種目の部活動がない」、保護者では、「中学校にやりたい種目の部活動がない」、「部活動よりも専門的な指導を受けたい」が続いている。



	中学生	中学生割合	中・保護者	保護者割合
①部活動よりも専門的な指導を受けたい	395	24.3%	236	22.3%
②中学校にやりたい種目の部活動がない	334	20.5%	274	25.9%
③部活動に入ってみたが、自分には合わないと感じた	65	4.0%	25	2.4%
④小学校からクラブ（スクール）で活動している	645	39.6%	433	41.0%
⑤その他	189	11.6%	88	8.3%
計	1,628		1,056	

問9 部活動やクラブ（スクール）での活動で、「もっとこうなったらいいのに」と思うことがあれば教えてください。【複数回答可】

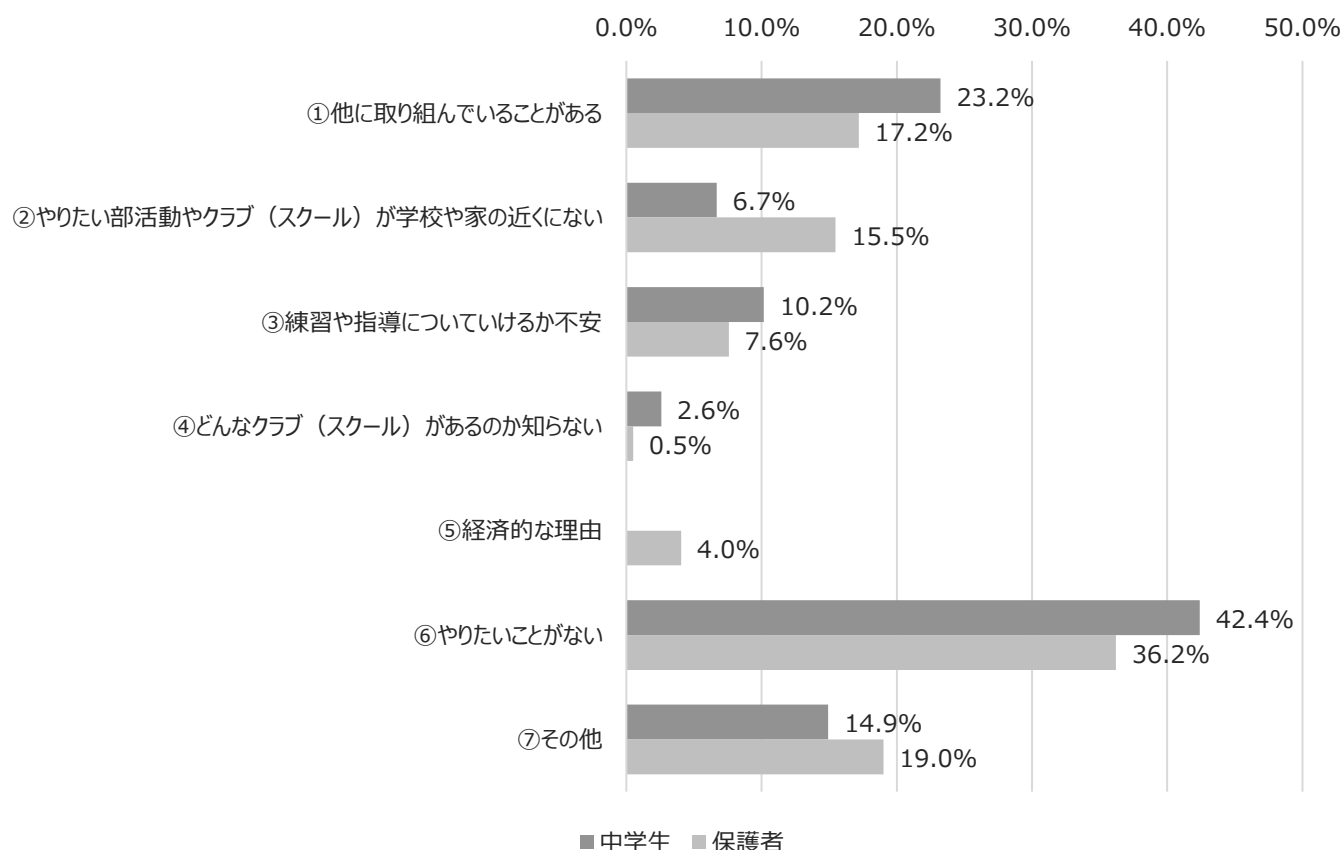
部活動やクラブ（スクール）での活動に対する要望としては、中学生は「初めての人でも気軽に参加できるような、楽しむことを中心とした活動をしたい」が最も多く、「試合（練習試合）やコンクール（合同練習会）等の回数を増やしてほしい」、「もっと大勢の人で活動したい」が続いている。保護者は「専門の指導者から教えてもらいたい」が最も多く、「初めての人でも気軽に参加できるような、楽しむことを中心とした活動をしたい」、「試合（練習試合）やコンクール（合同練習会）等の回数を増やしてほしい」と続いている。



	中学生	中学生割合	中・保護者	保護者割合
①専門の指導者から教えてもらいたい	1,681	9.5%	2,274	23.4%
②オンラインで、遠くにいる専門家から指導を受けたり、好きな時に動画等を見て自分で練習ができるようにしてほしい	697	4.0%	430	4.4%
③初めての人でも気軽に参加できるような、楽しむことを中心とした活動をしたい	2,444	13.9%	1,536	15.8%
④プロを目指すような、競技力や技術の向上を中心とした活動をしたい	1,472	8.3%	473	4.9%
⑤色々な種目に挑戦してみたい（複数の部活動やクラブ（スクール）に参加する等）	795	4.5%	477	4.9%
⑥練習の日数や時間を減らしてほしい	1,114	6.3%	541	5.6%
⑦練習の日数や時間を増やしてほしい	1,556	8.8%	611	6.3%
⑧試合（練習試合）やコンクール（合同練習会）等の回数を減らしてほしい	479	2.7%	369	3.8%
⑨試合（練習試合）やコンクール（合同練習会）等の回数を増やしてほしい	2,160	12.2%	796	8.2%
⑩朝練を減らしてほしい（したくない）	638	3.6%	395	4.1%
⑪朝練を増やしてほしい（したい）	990	5.6%	153	1.6%
⑫もっと大勢の人数で活動したい	2,044	11.6%	580	6.0%
⑬もっと少人数で活動したい	552	3.1%	60	0.6%
⑭その他	1,022	5.8%	1,003	10.3%
計	17,644		9,698	

問10 部活動にもクラブ（スクール）にも所属していない理由を教えてください。

部活動にもクラブ（スクール）にも所属しない理由は、中学生、保護者ともに、「やりたいことがない」が最も多く、約4割を占めている。中学生では、「他に取り組んでいることがある」、「練習や指導についていけない不安」が続いている。保護者では、「他に取り組んでいることがある」、「やりたい部活動やクラブ（スクール）が学校や家の近くにない」が続いている。

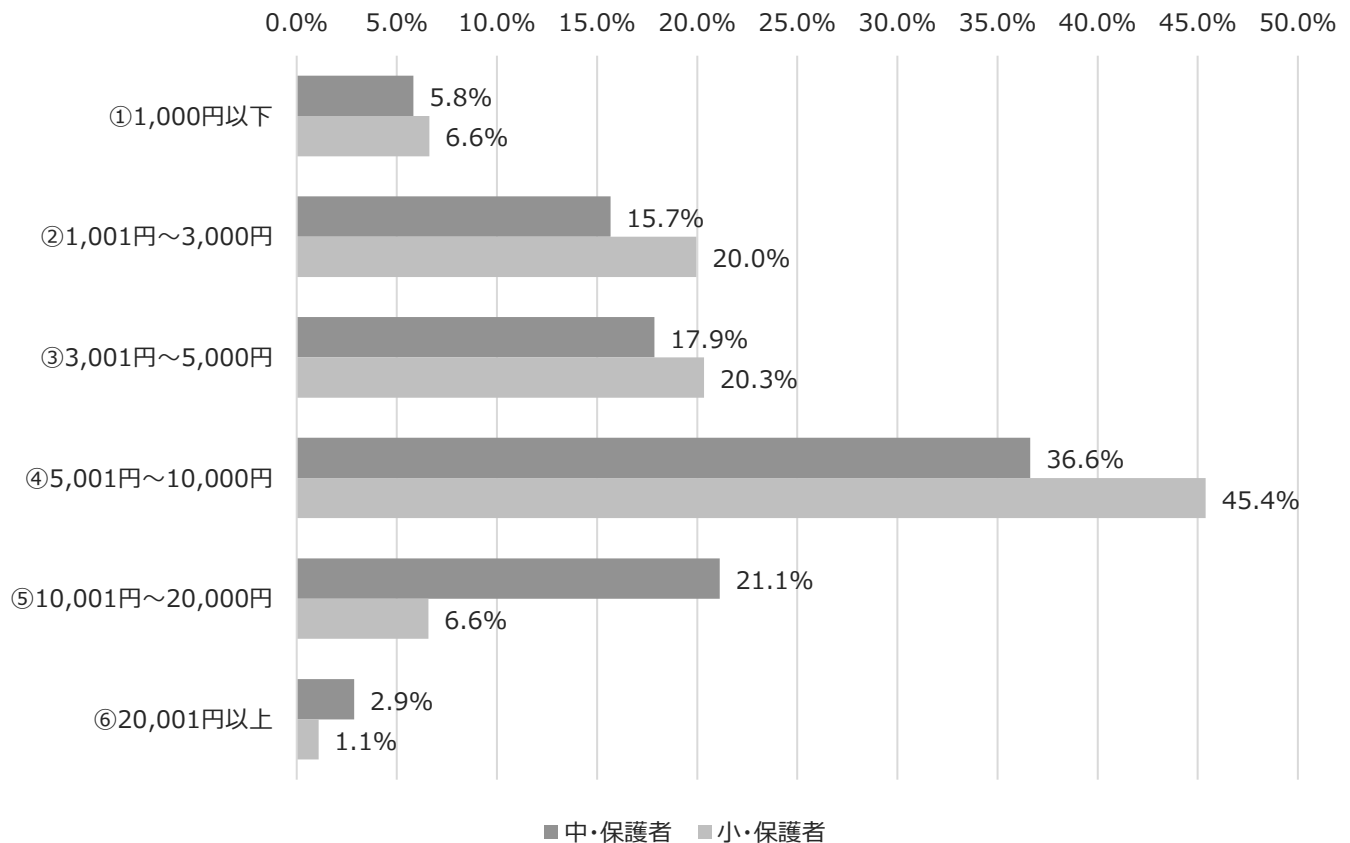


	中学生	中学生割合	中・保護者	保護者割合
①他に取り組んでいることがある	459	23.2%	170	17.2%
②やりたい部活動やクラブ（スクール）が学校や家の近くにない	132	6.7%	153	15.5%
③練習や指導についていけない不安	201	10.2%	75	7.6%
④どんなクラブ（スクール）があるのか知らない	51	2.6%	5	0.5%
⑤経済的な理由			40	4.0%
⑥やりたいことがない	838	42.4%	358	36.2%
⑦その他	295	14.9%	188	19.0%
計	1,976		989	

※中学生の選択肢に「⑤経済的な理由」は設定していない

問15 お子さんが所属しているクラブ（スクール）に、会費として定期的に支払っている費用負担額は、一月当たりどの程度ですか。

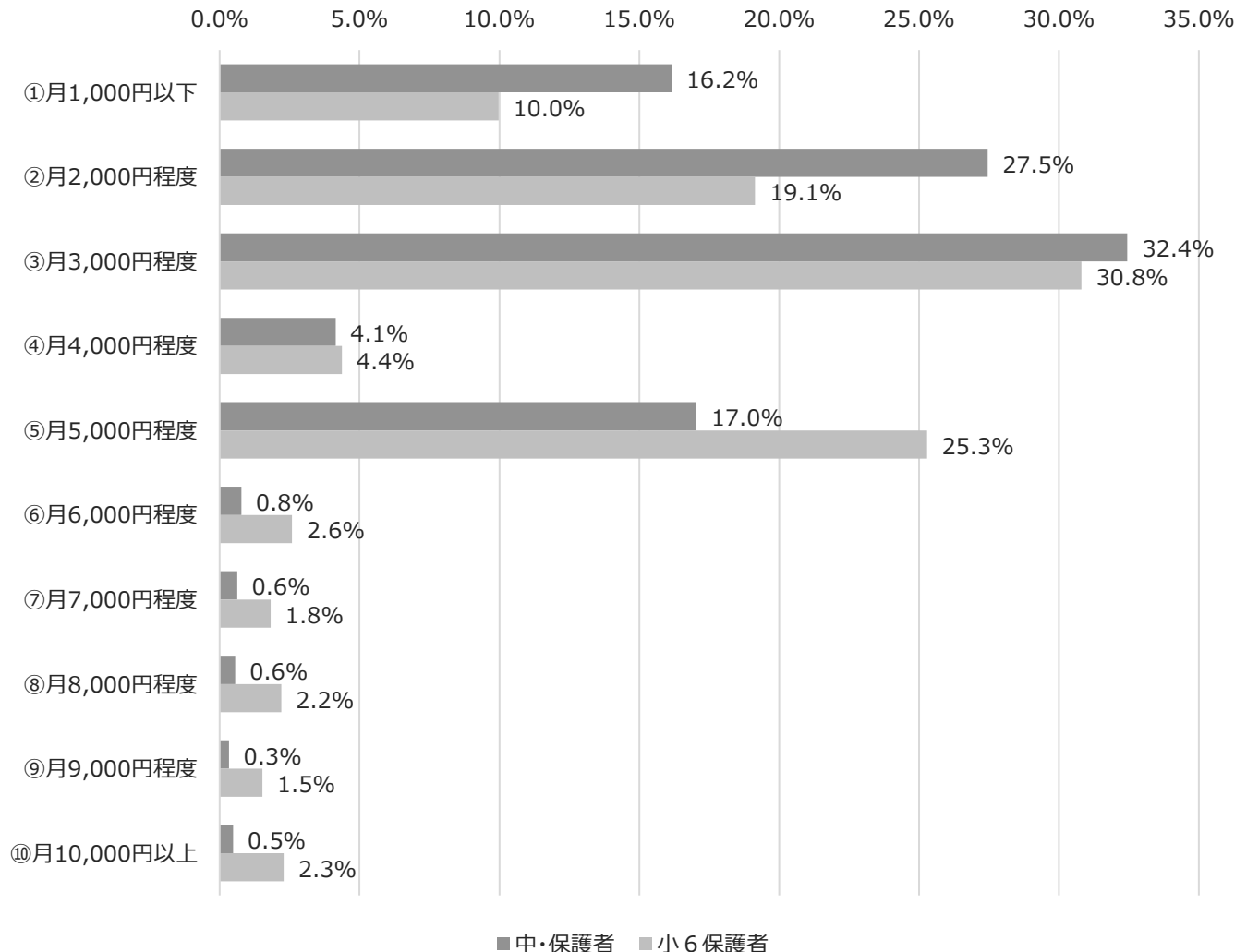
所属しているクラブ（スクール）に会費として定期的に支払っている一月当たりの費用負担額は、中学生保護者、小学生保護者ともに「5001円～10,000円」が最も多い。中学生保護者では、「10,001円～20,000円」、「3,001円～5,000円」が続いている。小学生保護者では、「3,001円～5,000円」、「1,001円～3,000円」が続いている。



	中・保護者	中・保護者割合	小・保護者	小・保護者割合
①1,000円以下	77	5.8%	612	6.6%
②1,001円～3,000円	207	15.7%	1,844	20.0%
③3,001円～5,000円	236	17.9%	1,880	20.3%
④5,001円～10,000円	484	36.6%	4,195	45.4%
⑤10,001円～20,000円	279	21.1%	608	6.6%
⑥20,001円以上	38	2.9%	101	1.1%
計	1,321		9,240	

問17 問9～問14でお答えいただいたような活動に参加する場合、毎月の会費としていくらまでの負担なら許容できますか。

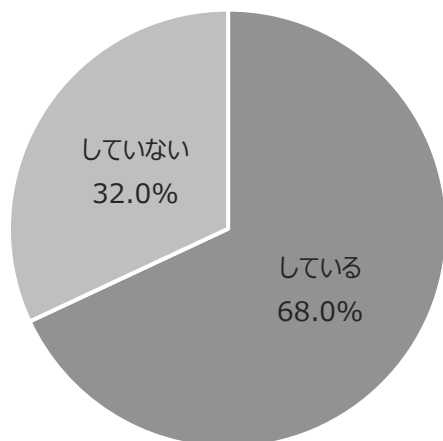
毎月の費用負担については、中学生保護者、小学生保護者ともに「月3,000円程度」が約3割と最も多い。中学生保護者では、「月2,000円程度」、「月5,000円程度」が続いている。小学生保護者では、「月5,000円程度」、「月2,000円程度」が続いている。



	中・保護者	保護者割合	小6保護者	保護者割合
①月1,000円以下	877	16.2%	235	10.0%
②月2,000円程度	1,490	27.5%	451	19.1%
③月3,000円程度	1,761	32.4%	726	30.8%
④月4,000円程度	225	4.1%	103	4.4%
⑤月5,000円程度	925	17.0%	596	25.3%
⑥月6,000円程度	42	0.8%	61	2.6%
⑦月7,000円程度	34	0.6%	43	1.8%
⑧月8,000円程度	30	0.6%	52	2.2%
⑨月9,000円程度	18	0.3%	36	1.5%
⑩月10,000円以上	26	0.5%	54	2.3%
計	5,428		2,357	

問18 お子さんはクラブやスクール、習い事などで運動や文化に関わる活動をしていますか。

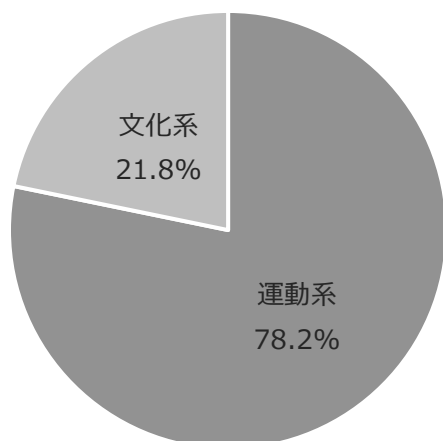
学校以外のクラブやスクール、習い事で活動している小学生は約7割であった。



	小・保護者	割合
している	9,240	68.0%
していない	4,340	32.0%
計	13,580	

問19 お子さんが所属しているクラブやスクールは何ですか。

クラブやスクールに所属している小学生のうち、約8割が運動系に、約2割が文化系に所属していると回答した。



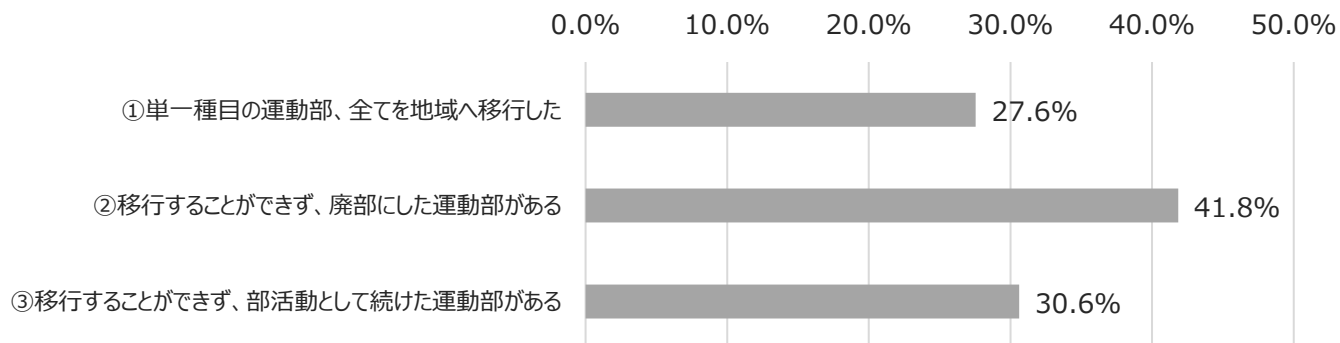
	小・保護者	割合
運動系	7,228	78.2%
文化系	2,012	21.8%
計	9,240	

(小学校の対応状況について)

問21 平成29年度から令和元年度にかけて、多くの小学校で運動部活動が地域に移行（社会体育化）しましたが、当時の部活動の地域移行の対応について、あてはまるものを選んでください。（同時に文化部活動についてもあり方を見直した場合は該当するものを選んでください）【複数選択可】

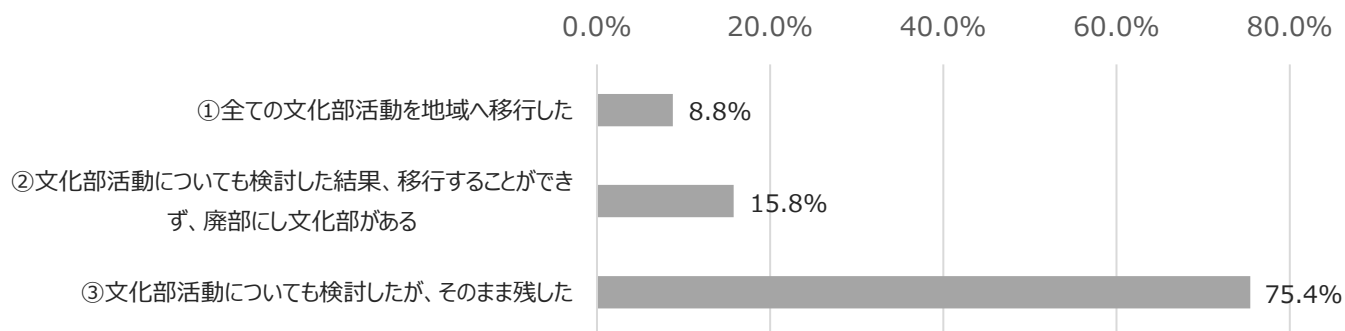
運動部については約7割が、文化部については約9割が地域移行することができなかった。

(運動部)



	小学校	割合
①単一種目の運動部、全てを地域へ移行した	27	27.6%
②移行することができず、廃部にした運動部がある	41	41.8%
③移行することができず、部活動として続けた運動部がある	30	30.6%
計	98	

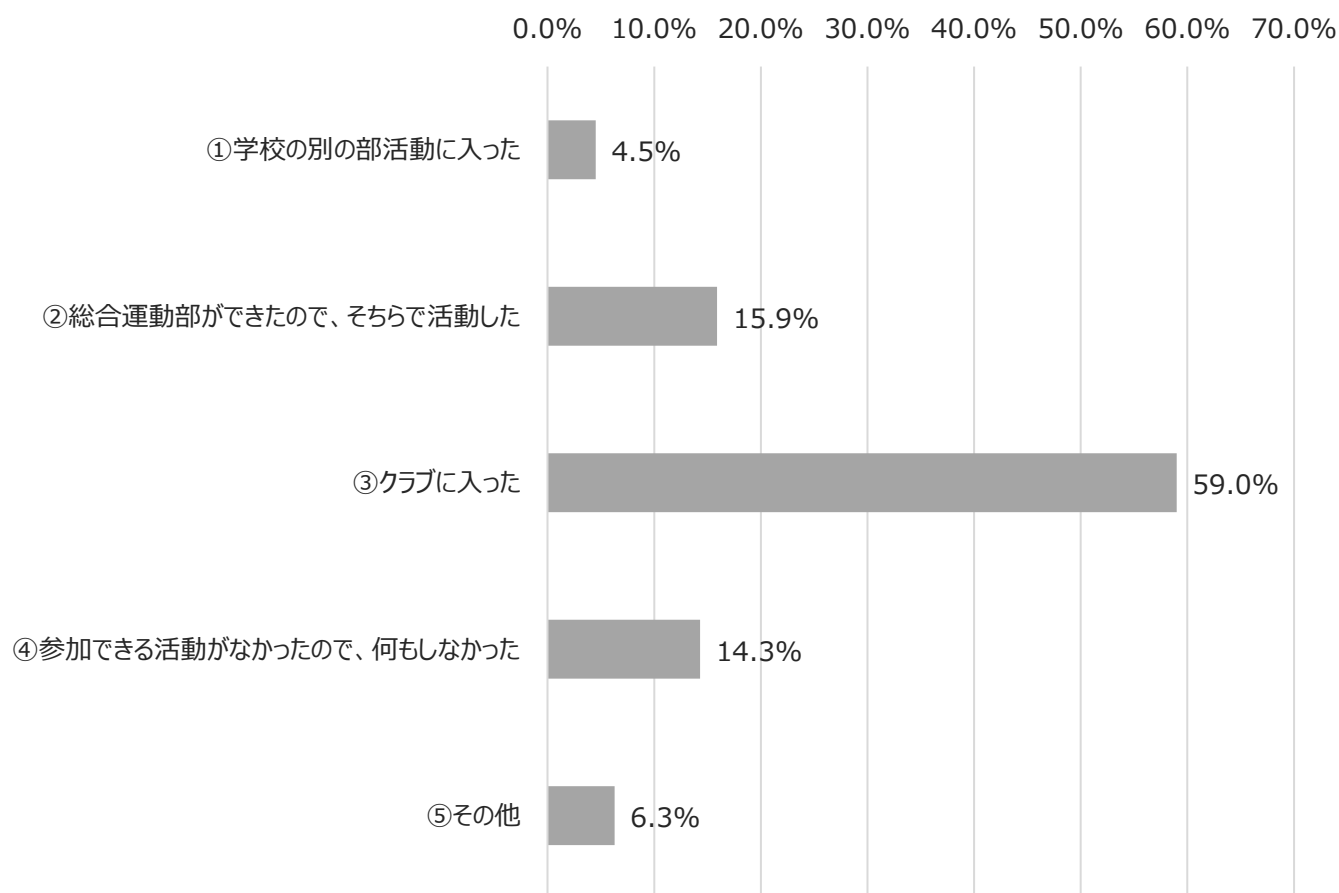
(文化部)



	小学校	割合
①全ての文化部活動を地域へ移行した	5	8.8%
②文化部活動についても検討した結果、移行することができず、廃部にし文化部がある	9	15.8%
③文化部活動についても検討したが、そのまま残した	43	75.4%
計	57	

問31 小学校部活動の地域移行によって、お子さんの活動の状況はどうになりましたか。

地域移行に伴う、子どもの活動状況の変化については「クラブに入った」が約6割と最も多く、続いて「総合運動部ができたので、そちらで活動した」、「参加できる活動がなかったので、何もしなかった」と続いている。

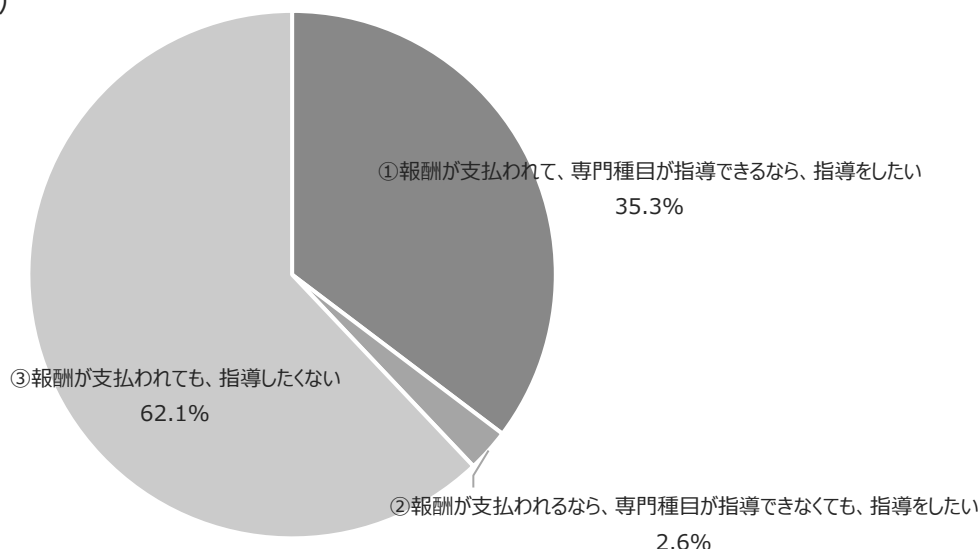


	中・保護者	割合
①学校の別の部活動に入った	79	4.5%
②総合運動部ができたので、そちらで活動した	278	15.9%
③クラブに入った	1,031	59.0%
④参加できる活動がなかったので、何もしなかった	250	14.3%
⑤その他	110	6.3%
計	1,748	

問47 平日も含め部活動が地域に移行した場合、勤務時間外に兼職兼業が認められ、報酬が支払われる報酬が支払われるなら、地域移行後も指導したいと思いますか。

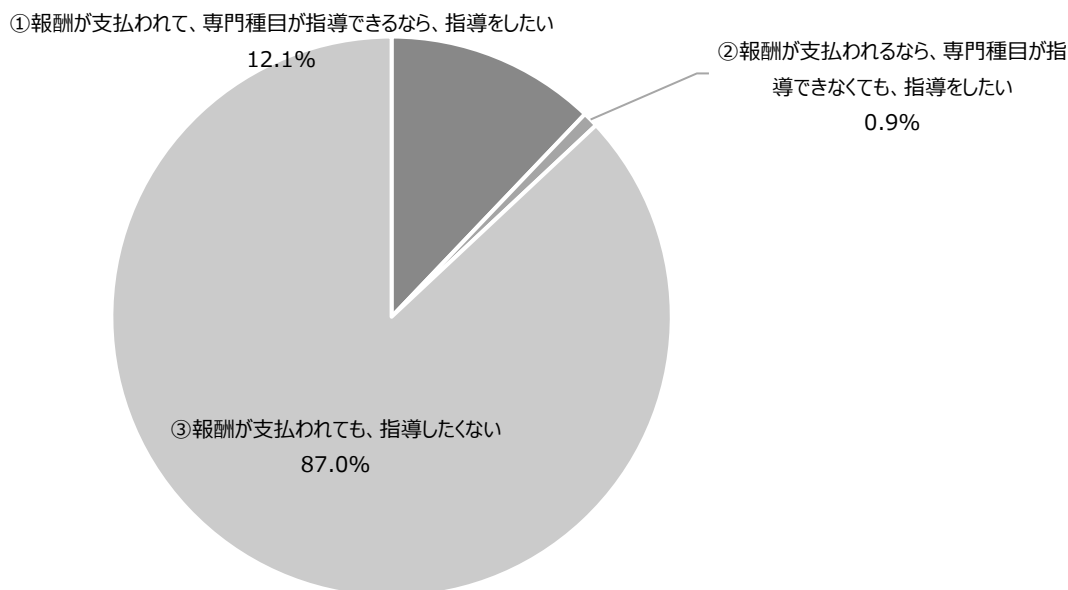
報酬が支払われるなら、地域移行後も指導したいと思うかについては、中学校では約4割の教員が「指導をしたい」、小学校では約1割の教員が「指導をしたい」と回答した。

(中学校)



	中・教員	割合
①報酬が支払われて、専門種目が指導できるなら、指導をしたい	322	35.3%
②報酬が支払われるなら、専門種目が指導できなくても、指導をしたい	24	2.6%
③報酬が支払われても、指導したくない	566	62.1%
計	912	

(小学校)



	小・教員	割合
①報酬が支払われて、専門種目が指導できるなら、指導をしたい	190	12.1%
②報酬が支払われるなら、専門種目が指導できなくても、指導をしたい	14	0.9%
③報酬が支払われても、指導したくない	1,363	87.0%
計	1,567	